

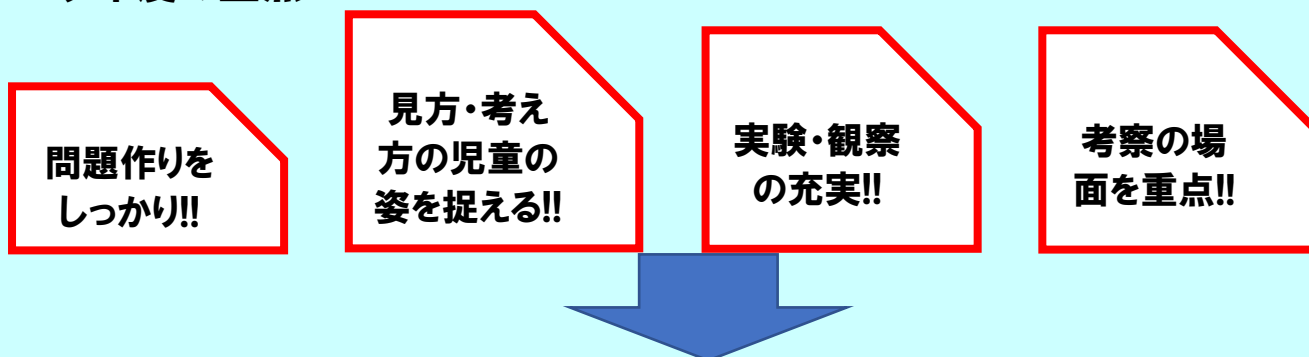
## <研究主題>

自然の事物・現象について見方・考え方を働かせ、  
実験・観察を通して、進んで考察する児童を目指して

### <現状における課題>

- ★ 問題作り
- ★ 考察の書かせ方
- ★ 学習用情報端末機器の活用
- ★ 見方・考え方のとらえ方
- ★ コロナ禍における理科学習の充実

### <今年度の重点>



自然の事物・現象について見方・考え方を働かせ、実験観察を通  
して、進んで考察する児童を目指して

### <具体的な手立て>

#### ① 考察の 表現の仕 方の工夫

導いた結果に基づき、進んで考察する児童を目指すため  
に、どのような手立てを講じればよいか、また、どのような  
視点で考察をすることができれば、児童の資質・能力を育成  
することができればよいか考えていく。

? どのような視点で考察をすればよいか?

? 評価をどのようにするか?(A 基準 B 基準)

? 中学年と高学年の考察の違いは?

## ② 学習の振り返り

単元を通して、「振り返り」を行い、児童の変容を見取る。

? 「主体的に取り組む態度・人間性」の評価をどのように行うか?

? 児童の変容を見取る!!

? 児童や先生方の大きな負担にならない効果的な方法は?

③ 見方・考え方を働かせている児童の姿を具体的にイメージする。

指導案の中に、児童が見方・考え方を働かせている姿を明記することで、児童の具体的な姿を想起していく。

? どのような児童の姿が見えれば、見方・考え方ができているといえるか。

- 
- 「エネルギー」・・・量的・関係的
  - 「粒子」・・・質的・実体的
  - 「生命」・・・共通性・多様性
  - 「地球」・・・時間的・空間的
  - 比較する
  - 関係付ける
  - 「条件を制御する」
  - 「多面的に考える」

## ④ 学習用情報端末の効果的な活用

学習用端末を学習の中でどのように活用していけば、模索していく。

- 児童の実態を把握する。
- 実験結果をグラフで導出する。
- 実験結果を共有する。
- 結果を記録する。